

＝平成30年度早川南小学校だより＝

はるき



平成30年5月29日

No.10

校長 坂野修一

## 若い先生も頑張っています！



明日からの修学旅行が、よい天気になりますように！  
(ほどほどの雨でお願いします)

明日から6年生は、2泊3日の修学旅行に出かけます！九州や四国が梅雨入りしたとのニュースも見聞きしましたが、関東甲信越地方の梅雨入りも近いようです。最新の天気予報によりますと明日から3日間☂マークがついています。「関東甲信越地方も梅雨入り」なんて発表が旅行中にあるのでしょうか？保護者のみなさま、是非、早川の地で晴天祈願をお願いいたします。また、旅行の様子は、Facebookでお知らせします。是非ご覧になってください。

さて、「1、2、3、4」。何の数字か分かりますか？山梨県の教員年齢別構成の比率です。正しい数字で書きますと、20代教員が9.6%、30代教員が19.5%、40代教員が25.8%、そして50代教員が45.1%となっています。とてもアンバランスな年齢構成ということがわかっていただけなのでしょう。では、「24、25、26、27、28、29」。この数字は何でしょう？これは、本校職員の若手職員の年齢です。半数が20代という、とても若い職場です。

山梨県の学校現場では、いえ、全国の学校現場では教職員の大量退職時代を迎え、10年以内に全体の半数近くのベテラン教員が退職していくこととなります。おとなりの東京都では、毎年2000人もの退職者と新採用者がいるとのこと。山梨でも200人を大きく超える新採用者の誕生がここ何年か続きます。

このような急速な世代交代の時代に対応するため、ベテラン教員が持っている教育技術、いわゆるノウハウをどう若い世代に伝え、学級経営力、授業力の豊かな教員を育てていくかが最大の課題となっています。そこで学校では、教職員集団がしっかりとスクラムを組み、日常の指導はもちろんのこと、校内研究会などを通して、「わかる授業づくり」や「子ども理解」についてスキルを高めあっています。また、校内の研修にとどまらず、初任者研修会などの県教委主催の研修会にも参加をしたり、峡南地域や県組織での教科別問題別の教育研究会にも参加をしたりして、専門性を高めています。

先週の金曜日には、4年小田学級の国語の授業を全職員が参観し、さらなる授業改善のためのアドバイスをしたところです。また、本日午前中は峡南教育事務所の指導主事が来校し、短時間ではありましたが全学級の授業を見ていただきご指導をいただきました。さらに午後からは、5年澤谷学級の算数の授業について、別の教育事務所の先生にご指導をいただきました。

まだ未熟であったり、研修に出かけたりすることの多い若い先生ですが、向上心は満々です。若い先生を支える中堅、ベテラン教員ももちろん健在です。また、当然のことながら、その先生方を支える管理職もまた健在です。保護者のみなさまの温かいご理解とエールをお願いします。

## 昨日のサンニチ新聞見ましたか？

※昨日のサンニチ5ページに、早川町のこと、早川の教育のことが取り上げられていました。その記事を書いたサンニチ保坂有さんは、10年ほど前につながりのあった記者でした。さっそく電話したら、「坂野さんが校長と知っていたら、早川南小に取材に行けば良かったとのこと(笑)」新聞が手元にありましたら是非ご一読ください。

**もう一度声と文字を大にして、「明日天気になあれ！」**